

(第2号様式)

那覇西第 2451 号
令和8年 3月 19日

沖縄県教育委員会教育長 殿

沖縄県立那覇西高等学校
校長 仲吉 健一
(公印省略)

令和7年度県立学校学校評議員の運営状況について(報告)

令和7年12月5日付け教県第1750号により依頼のありましたみだしについて、下記のとおり報告します。

記

1 日時、場所、出席状況等

回数	日時	場所	出席状況
第1回	7月15日(火) 16:00	進路学習室	3名中3名出席
第2回	12月17日(水) 15:00	進路学習室	3名中2名出席
第3回	3月16日(月) 16:00	進路学習室	3名中2名出席

2 学校評議員に求めた事項

本校経営方針に基づき、教務部、進路指導部、生徒指導部、国際人文科、体育科、1学年、2学年、3学年、その他学校全体についての現状報告及び成果と課題について各学期別に報告し、各評議員から様々な視点から改善策や意見・助言等をいただいた。

その他、学校評議員による授業視察を実施し、学校の現状を理解していただくとともに、意見や助言等に活かせるよう工夫した。

3 学校評議員の意見

- ① 生徒が自主的・主体的に行動する力を育てることの重要性が強調された。リーダーを支え合う集団づくりや先輩から後輩へとつながる伝統が良い影響を生むとの評価。生徒に責任を持たせ、失敗を経験させながら学ばせることの大切さ、過度に手をかけるのではなく、自分で考えさせる指導の必要性が示された。
- ② 家庭学習や宿題は強制よりも自発性を重視すべきとの意見が多く、学びを「楽しい」と感じる事が重要とされた。進路については多様な選択肢への対応や主体的に人生を選ぶ力を育てる必要性が指摘された。
- ③ 校則や教育内容は時代に応じて変える必要がある一方で、変えるべきでない点との見極めが必要とされた。また、教職員の多忙さや働き方、学校の雰囲気維持への配慮も課題として挙げられた。
- ④ 生徒の小さな変化やSOSを見逃さない観察の重要性が指摘された。活躍する生徒だけでなく、目立たない生徒への配慮や、自己理解を重視したキャリア教育、心身のバランス(行事と休養)への配慮も必要とされた。

4 学校運営に反映させた事項

- ① 今年度から体育的行事(西オリンピック)と文化的行事(学園祭)を毎年実施し、生徒が学校行事を毎年経験し、学年団を結成して先輩から後輩へとつながる体制をつくることで主体的に取り組む態度の育成につなげることができた。次年度もさらに生徒主体の学校行事となるよう取り組んでいきたい。
- ② 支援を要する多様な背景をもつ生徒への生徒指導體制を確立するため、次年度から生徒指導部に教育相談係を配置し、「生徒支援部」として生徒指導と生徒支援(教育相談、特別支援)の連携を含めたチームによる生徒指導に取り組んでいきたい。

5 課題その他

- ① キャリア教育の充実
進路決定時期の遅さに対して、キャリア形成の基盤となる自己理解の重要性が共有されていないのではとの指摘を受けた。自己理解に基づいた進路指導により生徒の自己実現が図られるよう学校行事、LHR等特別活動を要としてキャリアパスポートを活用しながらキャリア教育の充実に努めたい。
- ② 学習習慣の定着に向けて、わかる授業、主体的対話的深い学びの実現に向けた授業改善への取り組み、模試の活用等教職員と共通理解のもと組織的に取り組みたい。